中学校現場に適した二人組交流型
読書指導法「パートナー読書」の開発

足　立　幸　子

1．問題の所在

小学校において読書をしていた子どもたちが，中学校に入学すると読書をしなくなる。これは，全国に共通した傾向ではないか。全国学校図書館協議会による第56回学校読書調査では，2010年の５月１ヵ月間の平均読書冊数は，小学生が10.0冊，中学生が4.2冊となっている。その原因として，中学生になると部活動や受験勉強が忙しくて自由な時間に読書をすることができないということが指摘されている。実際，中学生が読む本は小学生が読むものよりは厚く，１冊読むのに時間がかかるという問題がある。加えて，国語の授業時数も短くなり，１週間に１時間程度確保されていたいわゆる「読書」の授業時間がとられなくなるという，学校教育のカリキュラム上の問題も大きい。教科担任制になって，教諭は，子どもたちがどのような本を読んでいるのか小学校の学級担任ほどには気を配れなくなるのが実情であろう。好きな本を好きに読む「個人読書」を中心にしていくと，1人1人の子どもたちがどのような本をどのように読んでいるのか，実態を把握するのは難しい。最大40人の児童を相手にすればよい小学校とは違い，中学校教諭は，複数学級・学年の生徒を対象にせねばならず，それぞれ読んでいる本も前述のように厚く読むのに時間がかかるから，全ての生徒が読んでいるものを読んで中身まで把握するのは，かなり難しいと言わざるを得ない。この結果，中学校の読書指導は放任主義に陥ってしまい，実際のところ読書をする子どもたちの割合は減ってしまっている。

一方で，平成20年３月に改訂された中学校学習指導要領は，「読書の指導については，読書に親しみ，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりするため，読書活動を内容に位置付ける」という中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針のもと，具体的な指導内容や言語活動例に読書活動を組み込んだものとなった。このためには，授業中に，教科書教材ではない本などを用いた読書指導を，位置づけていく必要がある。

これらの問題意識により，本研究では，中学校現場に適した国語科教育で用いることのできる読書指導法を開発することを目的とする。特に，①学校の中で短時間で扱え，②生徒の動機づけになり，③本を集めるのが容易で，④読んでいる中身をチェックでき，⑤学校で扱う意義を生かして生徒同士の交流が行えるという５点を観点とする。具体的には，二人組を作って，本を読んで，そのことについて何らかの交流を行う活動とし，これを「パートナー読書」と名づける。二人組を用いる理由は，詳しくは後で述べるが，二人組を用いた読むことの指導は，小さなグループ単位で活動時間を扱いやすいこと（①），一緒に読むパートナーがいることが読書の動機づけになること（②）が明らかになっており，２冊（場合によっては１冊）の本を用意できればよいので本を集めやすいと考えられること（③），教諭ではなくともパートナーが読んでいる中身をチェックできること（④），二人組みの交流の相手が決まっていることで活動に見通しが持ちやすいこと（⑤）など，①～⑤の観点に有効に作用すると考えられるからである。そこで本稿では，「パートナー読書」の試行的実践を行い，そこで見られた中学生・大学生参加者の反応や，それに対する教諭の受け止め方を探ることで，「パートナー読書」が中学校現場に適した指導法として受け入れられるものであるかを観

2011.10.19　受理

点①～⑤について検討する。

２．研究の方法と収集したデータ

先行研究を検討しながら，上記①～⑤の観点に効果がありそうな，二人組読書指導法「パートナー読書」を構想する。その構想に基づき，実際に中学校での授業実践を行う。授業中の観察，生徒のワークシート，生徒へのアンケート等から，授業中にどのような活動が展開し，生徒はどのようにその活動を受け止めたかを検証する。さらに，この授業実践を中学校教諭に紹介し，教諭が「パートナー読書」にどのように考えるかについての質問紙調査を実施する。

収集したデータとしては，生徒の様子を表すものとして，生徒の授業中の発言（録音），生徒のワークシート，生徒の授業後のアンケートがある。また，本研究では，授業者である筆者の他に，現職の中学校教諭３名（１名は実施校の国語教諭，２名は近隣の中学校の国語教諭）が授業見学をした。同日にこの４名で授業検討会を持ち，どのような生徒の様子があったか，また教諭としてそれらの生徒の様子をどのように考えたかを話し合った。さらにこれらの教諭には授業の記録兼アンケートに答えてもらうことにした。また，本研究の目的が，中学校現場に適した指導方法の開発であることから，これらの生徒の様子や３名の教諭の感覚の結果を実践報告として，教員研修の場で報告し，そこでこの指導法が中学校現場に適しているかどうか研修受講者である中学校教諭に，質問紙に回答してもらうことにした。以上，生徒（録音・ワークシート・アンケート），見学教諭３名（授業観察記録，授業検討会），中学校教諭30名の報告後質問紙調査が，考察を進めていくデータとして収集できた。

３．指導法の構想と授業実践の概要

３．１　中学校における読書指導の先行研究

二人組の交流を通した読書指導法の先行研究については次節で詳しく検討するが，その前に，我が国の中学校国語科における読書指導法の先行実践や教科書の現状と，「パートナー読書」との関係を述べておきたい。

我が国の中学生を対象とする国語科教育において，読書生活指導を唱えた大村はまの実践の中には，グループや学級集団を生かしたものは多数ある（大村，1984a，1984b）が，学級での二人組を中心にしたものは見当たらない。大村の実践は，読書指導実践を考えていく時に非常に参考になるものではあるが，本稿のようにどの中学校現場にも適した読書指導法を望む場合，かける時間や本の入手の過程（大村はまが１人１人の生徒に合った本を私費でそろえるなど），通常の教室で行うことは難しく，「指導法」として定式化するのには，多くの乗り越えるべき課題が存在する。大村の実践を生かした読書指導法の開発は，本稿とは別の機会に，別の方法で取り組んでみたい。

現行の中学校の国語教科書には，読書指導に関する記述としては①読書教材，②推薦図書リスト，③個人で行える読書法の紹介，④授業で行える読書活動（読書指導法）の４種類がある。①や②はいわゆる素材や素材に関する情報の紹介である。しかし，②の推薦図書は，あまり授業に用いられていないようなので，これを生かす二人組の読書指導法を提案してみたい。③は個人が中心であり，二人組や教室の中で行うには不適切なものである。④については，二人組を想定していたり二人組にも応用したりすることのできるものとしては，本を読んだ者が読んでいない者に本を紹介するもの（光村図書２年74頁「紹介カードを作ろう」など）がある。また，小グループを用いて読んだ内容を話し合うものも小数ある（三省堂３年207頁「ブッククラブ」など）。本稿では，より簡単な形で継続的に行っていける読書指導法として，二人組の交流を生かした「パートナー読書」を提案したい。

３．２　二人組の交流を通した読書指導法の先行研究の検討

二人組にする理由は，本が集めやすく（１タイトルに２冊あればよい），またパートナーが実際にその本を読んできたかどうか，どのように読んできたかをチェックでき，読書の中身自体の学習ができるからである。関連して，相手がいることで読書の目的がはっきりし読むことの動機づけになることも理由として挙げられる。Hughesら（2009）の研究では，相手がいてその人に向けて読んだり書いたりすることを「真実味のあるリテラシーの課題」（Authentic Literacy Tasks）と呼んでいる。そして真実味のある課題は，通常

の課題に比べて子どもが読むときの動機づけに効果的であることを明らかにしている。

二人組の読書指導法の先行研究としては，椋鳩十の「母子20分間読書運動」がある。これは，家庭で，母が子どもの音読を聞いてその本について話し合うというものである。つまり家庭での読書指導方法であるが，学校で同様の方法を用いることができないかを検討したい。アメリカの Topping が唱えたペア読書（paired reading）が，これに対する１つの解答を与えてくれる。ペア読書は，もとは親子で行うものであって，読む能力がある人がチューター（tutor）となり，本を選んで，その本を読む能力のない方のチューティー（tutee）がどう読むのか見守っていくという方法である。やはり，音読に焦点をあてており，チューティーの音読をチューターが聴き，読み間違いを訂正したり読み方が分からない単語の読み方を教えたりというような形である。しかし，Topping の方法は学校現場でも広く応用されている。そこでは，６週間の間，同じチューターとチューティーの組み合わせで，チューターがチューティーの読みを見（monitor）つづけていくこと，１回は15分か30分以内に抑えることなどが示されている。このように，親子で行われているものを応用して，能力差があるパートナーの組み方をすれば，家庭で行う母子20分間読書運動も学校で行うことができそうである。また，イギリスのWrayとMedwellの書いたテキストでは，Topping同様，能力差を利用した二人組の音読活動をペア読書（Paired Reading）として説明している。これらの方法は，小学生が対象になっていること，交流の活動としては，読めない方が能力差のある相手に音読を聞かせるというところが共通している。ただし，Toppingの方は，本の選択をチューターに任せているが，Wrayの方はだれが本を選択するかははっきり書かれていない。

一方，我が国では，「ペア読書」というと，小学校で学年の異なる２人をペアとし、上の学年の児童が下の学年の児童に読み聞かせをするという意味で使われることが多い。筆者もそのような現場を見学した機会があるし，浜田市立井野小学校，丸亀市立城北小学校，沼津市立原東小学校など，巻末の資料１に示したホームページで分かるように，このような取り組みが全国的に広がっている。これが，椋の20分間読書やアメリカ・イギリスのPaired Readingと異なって興味深いのは，音読をするのが，年齢の低い方の児童ではなく，高い方の学年の児童であるという点である。低学年の方が読んでもらった感想を述べるなど，単に音読をチェックするだけではないというところも重要である。

狭山市立堀兼小学校で行われているのは，同じ「ペア読書」という言葉ではあるが，違う活動である。これは，同じ学級の児童が同じ本を同じ量読んできて話し合うというものであり，二人組の年齢差あるいは能力差を前提としない方法である。

本稿で対象とするのは中学校なので，中学校レベルでの研究も検討した。アメリカのミドルスクールでの読みの指導について述べている Robb は，パートナー読書（Partner Reading）として様々な活動を述べている（Robb，2000）。例えば，読書に入っていく時の活動として，二人組で絵本を選び，書名と表紙を見た後，最初の２頁だけを読んで，次の起こることを予想する。お互いに予想を尋ねあった後，続きを読んで，予想があたったかどうかを確かめる。予想にあたって，どのような方略を用いたかを話し合う。このほかに，読書を行っている途中の活動として，パートナーで同じ本を読み，１人が相手にその本のある部分の内容を自分の言葉で説明する活動や，読んだ部分について２人で質問しあう活動や，二人組や小グループでどのように読書方略（reading strategy）を用いたかを話し合う活動などを述べている（Robb，2000，pp.36-37.）さらに，このやり方を自由読書の時間にも踏襲することを奨励している。パートナー読書を通して得た読書方略を，自由読書にも自覚的に用いることを期待しているのである。

その他，パートナー読書あるいはペア読書という言葉を用いずとも，二人組で行われている読書活動がある。アメリカの複数の都市部で行われている In2books というプロジェクトは，年間５冊の様々なジャンルの本を，ボランティアである大人１人と子どもが，二人組になって読んでいくというものである。互いの自己紹介から始まり，５冊の本について手紙のやりとりを行っていく（Teale ら，2007）。

日本語教育の分野では，「ピア・リーディング」という言葉がある（舘岡，2005）。これは，二人組を中心に，時には小グループなども含むようであるが，いずれにせよ，複数人で読むことを強調しているという意味において，本研究と重なる読むことの方法である。舘岡は，「ピア・リーディングの特徴は，仲間と読みの結果のみではなく過程をも共有し，対話を通して学ぶということである。そこでは，読解という外からは見えない認知過程を，あえて対話という形で外に出し『可視化する』という重要な意味が含まれている。

『可視化』というのは，発話過程が見えるわけではないので適切な表現ではない。しかし，頭の中にあって他者が知ることができない過程を発話によって外化し，見える（聞こえる）形にし相手への伝達を試みるのである。」と述べている（舘岡, 2005, p.155）。すなわち，ピアがいることによる対話機能が，自己の読みを自覚化させるということである。また，舘岡は，PalincsarとBrown（1984）の相互教授法reciprocal teaching を引用している。これは，国語科教育の分野でもよく引用されるが，生徒がグループになり，互いに教諭役と生徒役を交代しながら、読み進めていくという方法である。協同学習は二人組に限らないが，他者との相互作用によって１人では行えないような学習を行っていくという意味において，ヴィゴツキーの発達の最近接領域の考えを踏まえている。

以上をまとめると，二人組の交流を取り入れた読書指導には，相手がいることによる動機づけ，読みの可視化，自分の読書の自覚化，他者の働きかけによる教育効果などが期待できる。そこで，このことを生かして，短時間で扱える中学校現場に適した二人組の読書指導を構想する。

３．３　二人組の交流を通した読書指導法「パートナー読書」の構想

先行研究に多かったのは二人組で読み聞かせや音読を行う活動であったが，本研究では中学生という対象に合わせて，読書を取り入れた活動を行う。２人でパートナーを組み，２人で本を選び，その本をそれぞれ読んできて，その本について２人で協同活動（交流）を行うことを，ここでは「パートナー読書」と呼び，本稿で議論する読書指導法とする（図１）。

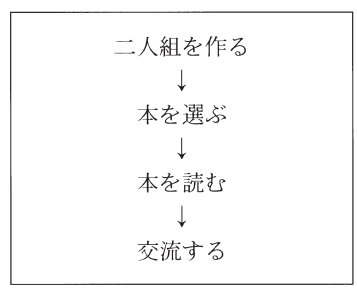

図１　パートナー読書の学習過程

授業デザインとしては，２時間構成とし，１時間目にパートナーづくりと本選び，２時間目に２人での協同活動（交流）を位置付ける。１時間目と２時間目の間を数週間空けることによって，家庭や朝の一斉読書の時間等を用いての読書を行わせる。２時間構成にした理由は，中学校現場では，現状では読書指導の時間が取りにくいが，２時間であれば，１年間に１～２度くらいは実施可能であると考えるからである。生徒がやり方を覚えてしまえば，１度目は朝の一斉読書の時間などに行い，２時間目だけを国語科の授業として行うことが可能である。そうすれば，１学期間に３回ぐらいの頻度でも行えるであろう。二人組を作って，本を選んで，読んできて，交流するという形式を定式化してしまえば，シンプルで短時間で行えるので，忙しい中学校現場でも継続的・計画的に行っていけると考えた。

そこで，本研究では，次の２点が比較できるように，授業を組むこととする。

⑴　二人組は，年齢差がある場合とない場合でどのように異なるか
　中学生と大学生がパートナーになる「年齢差あり群」と，同じ学級の生徒同士でパートナーになる「年齢差なし群」の２群を用意する。

⑵　どのような交流を行えば効果的であるか
　読んできたことについて直接話し合いをする「直接交流群」，学校図書館に展示する本につけるポップを作る「協同作業群」，実際にはパートナーが会わず手紙の交換を行うことで交流を行う「間接交流群」の３群を用意する。

ある中学校の同じ学年３学級の協力を得られることになったので，表１のように授業を構想する。

表１　３学級の授業構想

	直接交流群　（１組）	協同作業群　（２組）	間接交流群　（３組）
二人組の組み方	年齢差なし 同じ学級の隣の席同士	年齢差なし 同じ学級の好きな人同士	年齢差あり 中学生と大学生で，同じ本を選択した者同士
本の準備	過去に読んだ本を持参させるか，授業実施者が持ち込んだ本（38タイトル２冊ずつ準備）を用いるか，生徒が決める	教科書の推薦図書リスト50タイトルのうち，Ｓ中学校図書館とＮ市立図書館で２冊以上集められたもの38タイトル	授業実施者持参の中学生に適した図書38タイトル（２冊ずつ準備）
本の選択	生徒が持参する場合にはパートナーが選択する。授業実施者持参の本の場合には２人で相談して選択する。	パートナー決定後，２人で相談して選択する。	中学生が38タイトルの中から，自分が読みたい本を選択する。大学生は，中学生が選択した33タイトルの中から，自分が読みたい本を選ぶ。
２時間目の交流	その本を読んで，好きな人物・嫌いな人物，感動したところ，批判したいことなどについて直接話し合う。	２人で１つのポップを作成する。ポップは本と一緒に学校図書館に展示することとする。	自分が選択して読んできた本について，大学生のパートナーが書いた手紙を読み，返事を書く。

３．４　実践の概要

構想に基づいて，中学校１校，第２学年３クラスにおいて，授業実践を行った。巻末の資料２に学習指導案を掲載する。概要は以下の通りである。

３．４．１　対象

Ｎ市立Ｓ中学校　２年１組，２組，３組　計106名（男子63名，女子43名）

３．４．２　日時

次の２時間を国語科の授業として行った。

第１時　平成21年９月30日（水）

　２年１組　第１校時　２年２組　第３校時，２年３組　第２校時

第２時　平成21年10月22日（木）

　２年１組　第２校時，２年２組　第３校時，２年３組　第１校時

３．４．３　実践の概略

第１時　パートナーを組んで，図書を選ぶ。（１時間）

第２時　同じ図書を読んできたパートナーと，交流活動（協同作業）をする。（１時間）

　交流活動　２年１組　話し合いの観点を示した「お助けシート」に基づいて話し合う。

　　２年２組　２人で相談・分担をしながらのポップを作る。

　　２年３組　大学生から来た手紙を読み，返事を書く。

表２　１組・３組で使用した図書（授業者持参）

あのころはフリードリヒがいた いちご同盟 エーミールと探偵たち 大どろぼうホッツェンプロッツ オ・ヤサシ巨人ＢＦＧ ガラスの家族 銀河鉄道の夜 佐賀のがばいばあちゃん シャーロットのおくりもの 車輪の下	十五少年漂流記 十二歳の合い言葉 星条旗よ永遠なれ 蟬しぐれ 鷹は昼狩りをしない 小さなスプーンおばさん チョコレート工場の秘密 テラビシアにかける橋 点子ちゃんとアントン 時をさまようタック	図南の翼－十二国記 飛ぶ教室 トム・ソーヤの冒険 トムは真夜中の庭で トリトリ 西の魔女が死んだ 博士の愛した数式 バッテリー ビクトルの新聞記者大作戦 星の王子さま	マーガレットとメイゾン みどりのゆび モモ 夜回り先生と夜眠れない子どもたち ユウキ ライオンと魔女 理由 ルドルフとイッパイアッテナ

表３　２組で使用した図書（N市立図書館・S中学校図書館・H中学校図書館所蔵）

中学校２年国語教科書『現代の国語２』三省堂「小さな図書館へようこそ」162～167頁

	タ　イ　ト　ル	N市（冊）	S中（冊）	H中（冊）	★使用した図書 ☆S中とH中の学校図書館で２冊以上
1	江戸の笑い	2	1	1	★☆
2	しばわんこの和のこころ	2	1	0	★
3	絵本　パパラギ	2	0	1	★
4	世界がもし100人の村だったら	2	1	1	★☆
5	あなたにあいたくて生まれてきた詩	0	1	0	
6	海がきこえる	0	1	0	
7	落ちてきた時間	1	1	0	★
8	「お互いさま！」宣言	1	1	1	★☆
9	どんぐりの夏	0	1	0	
10	木を植えた男	1	1	1	★☆
11	宇宙のはなし	0	0	0	
12	つきのふね	2	1	1	★☆
13	素敵な宇宙船地球号Ⅰ	0	0	0	
14	平和ってなに？	1	1	1	★☆
15	せかいいちうつくしいぼくの村	1	1	0	★
16	絵で読む広島の原爆	2	1	0	★
17	三国志ハンドブック	0	0	1	
18	おんなのことば	0	1	0	
19	ことばの力	2	1	1	★☆
20	文字の風景	1	1	0	★
21	どの本よもうかな？　中学生版　日本編	1	1	1	★☆
	どの本よもうかな？　中学生版　外国編	1	1		★
22	ことばへの旅	0	1	1	★☆
23	桃尻語訳　枕草子	2	1	1	★☆
24	ハッピーライフ	1	1	0	★
25	韓国の若者を知りたい	2	1	1	★☆
26	一日江戸人	2	1	1	★☆
27	ビート・キッズ	2	1	0	★
28	ブライユ	0	1	0	
29	エイジ	1	1	1	★☆
30	どろぼうの神さま	2	1	1	★☆
31	モモ	2	1	2	★☆
32	北の国から	2	1	1	★☆
33	海の短編集	0	0	1	
34	川の少年	2	1	1	★☆
35	折り鶴に出会った子どもたち	0	0	0	
36	がんばらない	2	1	1	★☆
37	体の贈り物	2	0	1	★
38	炎の秘密	1	1	1	★☆
39	岳物語	2	1	1	★☆
40	科学者レイチェル＝カーソン	2	1	2	★☆
41	夏の庭	2	1	1	★☆
42	未来を信じて	1	1	1	★☆
43	あのころはフリードリヒがいた	2	1	1	★☆
44	半分のふるさと	2	1	2	★☆
45	少年H	2	1	1	★☆
46	明日	0	0	0	
47	太陽の子	2	1	1	★☆
48	たんぽぽのお酒	2	1	0	★
49	ハッブルが宇宙望遠鏡がとらえた宇宙	0	0	0	
50	宇宙船ビーグル号	1	0	0	

4．授業実践の実際

4．1　第1時　パートナーを決め，本を選ぶ

4．1．1　授業者から見た各学級の様子

各学級とも，パートナーを決めて本を選ぶ活動である。

1組では，教科担任の意向もあり，パートナーは学級の席の並びで隣同士で組むこととなった。図書は，自分たちの読んだことのある図書を持参して交換するか，授業者が持参した図書（表2，38タイトル。1タイトル2冊ずつ用意）を選択するかを生徒自身が決めてよいこととしていたが，全員が，授業者の持参した図書から選択をした。まず，二人組になった状態で，配布された図書紹介用紙を概観し，二人組のまま図書が置いてあった別室（同じ階の学習室）に移動し，読みたい本を決めて持ち帰ってくる。残りの時間で，各自選択した図書を読むという活動をした。

2組では，授業者も生徒達も自分の好きな者同士のパートナーを組むことを望んだが，やはり教科担任の意向で，隣同士でパートナーになることになった。図書は，表3にあるように，N市立S中学校が用いている国語教科書である『現代の国語2』（三省堂刊）の「小さな図書館へようこそ」162～167頁に掲載されている図書50種の中から，N市立図書館及びS中学校の蔵書で2冊集められるもの38タイトルを用意した。これは，「パートナー読書」が図書の集めやすさということを重視しており，教科書を手がかりに実際に図書を準備できるかを試してみたためである。図書の選択の方法は，結果的に1組と同じになった。まず，教科書162～167頁に掲載されている簡単な本の紹介を読み，二人組で別室に移動し，読みたい本を決めて学級に持ち帰ってくる。残りの時間で選択した図書を読んだ。

3組は，パートナーが大学生である。読みたい本を選んだ者同士がパートナーになるということにし，生徒には自由に図書を選ばせた。1組と同じ図書38タイトルのうち，それぞれが読みたいというものを選んだ。大学生は，生徒が選んだ図書の中から，読みたいものを選ばせて，同じものを選んだものがパートナーということになった。

4．1．2　観察した教諭の記録

第1時を観察した教諭3名が記入した記録及び，当日持たれた検討会で挙げられた意見をここにまとめる。囲みの中が教諭の記録であり，囲みの下に検討会の意見と筆者の考察を記す。

〈1組〉

- 知っている人と同じ本を読んでいるので，話をしながらわくわくしている様子がわかる
- 読む時間などを目標にして話をしている生徒がいました。3日間で読むぞ～！！という声あり。
- 「ただ読めばよいのか」という質問あり　読んだ後にどんな活動がなされるのか心配している様子。
- 別室での本との出会いの場面が一番楽しくステキな場面だと思うので，その出合わせ方が大切だと感じました。プリントは補助として使い，まずはじめに本と出合い，ペアごとに，本について語り合いながら決めるというのはどうでしょう。（必要に応じて参照するなど）

生徒は期待しながら本を選んでいるといえる。ただし，本の実物と出合わせることをもっと重視すべきであったという意見が出た。

〈2組〉

- パートナーにこだわっていた
- パートナーについて　男女組14，男男組3
- 教科書に案内されているものは話題性がないものが多いので選書の時に飛びつく感じがないと思いました。
- となり同士でプリントについて話し合ったり，本を探す場面で話すことが，あまり見られませんでし

た。
・ペアで相談しながら，選んでいたグループは，見とれた中では，３ペアであった。本探しの場面を大切にしたいと思いました。

このクラスでは，授業者が「どのようにパートナーを作りますか」と生徒に問うたこともあって，生徒自身が自分たちの好きな人同士でパートナーになりたいという意向が強かった。学級担任が様々な配慮をして割って入るような形で，座席隣同士でパートナーになった。Ｓ中学校の２年生は男子生徒が多く，男女の組が基本で，人数の都合上男子同士パートナーになるところもあった。ただ，このことが災いしたのか，２人で相談して決めるというようなパートナーを生かした選書の活動は見られなかった。

教科書のリストに載っている図書を利用したが，他のクラス（授業者が持ち込んだ図書）の様子を見ている教諭にとっては，多少魅力がないように映ったようである。図書の集めやすさも重要であるが，生徒にとって魅力的な図書を用意することも重要である。

〈３組〉

・大学生とペアを組んで本を読むということに，驚いたり，ハッとしたり，目つきの変わった生徒がいました。大学生と読むということで，モチベーションも上がり，別室での本選び，選んでからの読書もスムーズに流れ，個々の生徒が本の世界にスッと入り込んだような感じがしました。
・（大学生がパートナーということに関して）中学生にとって新鮮なことで，読む意欲となっていました。
・パートナーは大学生　大学生と同じ本を読むことで，大学生ということに興味を持っているいる生徒あり。次の活動はどんなことがなされるのかと考えている生徒あり。
・選書の仕方→話題性のあるもの，第一印象など

この学級は，大学生がパートナーであったが，相手の分からないパートナーということが，かえって，２組の様子などと比較すると，読む意欲につながっていくようであった。

選書の仕方としては，パートナーと相談するという場面がないので，話題性がある図書（映画化されたもの）を選んだり，表紙などから来る第一印象から選んでいた。

〈３学級を比較しての考察〉

以上のことより，第１時の生徒の様子からは，パートナーの組み方ということが問題になった。２組のように「好きなもの同士組みたい」という中学生の思いや，かえって３組のように知らない人とパートナーになるという緊張感が，読書意欲につながるということが言える。

図書については，集めやすさという点では，教科書の選書は大いに参考になるが，実際の生徒の様子では，映画化などの話題がある図書に人気があり，生徒にとって魅力的な図書を用意することの重要性が再確認された。一方で1組の生徒は，自分の読んできた図書を交換するという選択肢を選ばす，一緒に新しい本を読むということが，生徒が望んでいることであることも確認できた。

４．２　第２時　交流する

４．２．１　授業者から見た各学級の様子

各学級とも，読んできた本の内容や読書の活動について，パートナーと交流する活動である。

１組では，資料２の学習指導案の「５　本時（１組の場合）（２）展開」の通りに授業が進められた。授業開始後，すぐに本についてパートナーと話し合うことを求めたが，すぐに話し合いを展開できたのは２組のみであった。そこで，交流の活動を助けるワークシート「お助けシート」（図２）を配付した。これには，「１．パートナーとこんなことを話し合ってみたら」として話し合いの19観点が示されている。まず，それぞれの生徒がパートナーと話してみたいもの，あるいはパートナーの考えを聞いてみたいものに丸印をつけさせた。その後，その観点について話し合ってみるというものである。提出された「お助けシート」による

と，話し合ってみたいものとして丸印がついたのは多い順に，

20名・好きな登場人物
12名・嫌いな登場人物
11名・かっこいいセリフ
7名・ストーリーの展開
6名・この本で一番大事なこと（テーマ）
5名・感動したところ・良い表現だなあと思ったところ・疑問に思ったこと
4名・冒頭の部分（最初の部分）について思うこと・最後の部分について思うこと
　・この本の背景になっていること（社会的背景）・作者について
3名・共感したところ
2名・嬉しかったところ・悲しかったところ
1名・もしも私だったら……　・批判したいところ・話の構成，エピソードの順番
0名・同じような経験やエピソード

となった。これらは複数回答可で優先順位をつけさせた。ワークシートには話し合った内容も書かせたが，優先順位の高いものは実際に2人で話し合ったことが窺える。したがって，このワークシートは，二人組の話し合いを活性化するのに役立ったと言える。

パートナー読書　お助けシート　　**10月22日２限　授業後に提出**

２年１組（　　）番　氏名（　　）　パートナー（　　）さん

１．パートナーとこんなことを話し合ってみたら

（話してみたいもの・聞いてみたいものに〇をつける、優先順位をつける）

・好きな登場人物
・嫌いな登場人物
・同じような経験やエピソード（自分自身、知っている人、これまで読んだものの中で）
・もしも私だったら……
・共感したところ
・批判したいところ
・感動したところ
・嬉しかったところ
・悲しかったところ
・良い表現だなあと思ったところ
・かっこいいセリフ
・冒頭の部分（最初の部分）について思うこと
・最後の部分について思うこと
・疑問に思ったこと（パートナーに答えを聞いてみよう）
・この本で一番大事なこと（テーマ）
・この本の背景になっていること（社会的背景）
・ストーリーの展開
・話の構成、エピソードの順番
・作者について

２．実際に話し合ったこと（話し合った内容）と、話し合ってみて思うこと

図２　１組のワークシート「お助けシート」

２組では，ポップづくりを行った。ポップは，最近本屋などで手作りのものをよく見かけるようになったが，本の内容や紹介，推薦文などを載せた宣伝カードのようなものである。授業時には，まず大学生が作成したポップの見本を見せ，ポップに必要な事項（粗筋，感想，決め台詞，印象的な一文，誘い文句）と工夫（イラスト，デザイン）を整理した。そのうえで，二人組でポップを作成する作業に移った。作成のための消耗品（色画用紙）や道具（ペン，はさみ，のり）などは実践校で用意していただいた。生徒たちは非常に活発に熱心に作業をしていたし，楽しそうでもあった。しかし，よく観察してみると，粗筋をまとめようとする生徒と，本の中のイラストを真似して色画用紙に写す生徒といったように，完全に分業化しており，作業しながら相談したり話し合ったりして交流を行うことは，授業者が期待するほどは行われなかった。

３組では，パートナーとなっている大学生から届いた手紙を，一人一人の生徒に配付した。生徒はとても熱心にその手紙を読んでいた。返事を書くための便箋等は授業者の方で複数種類（様々な色，横書きと縦書きなど）を準備し，生徒に好きなものを選ばせた。返事を書くときに，学力に問題がある生徒の中には，どのように書いてよいか迷ってしまう生徒もおり，授業者が個人指導をしなければならない例もあった。読了した生徒ばかりではなかったが，何とか読んだところまででも大学生の手紙にあった質問に，返事で答えようとする生徒の姿が見られた。ただし，書けなくて諦めてしまう生徒やインフルエンザで欠席をした生徒もあり，時間内や後日も含めて返事が戻ってこない事例があった。大学生の手紙と返事の例を，表４に示す。授業者が大学生に指示したのは，①中学生の名前を手紙に入れること，②投げ掛けの文（典型的には質問の形）を２つ以上入れること，の２点である。表４はこの手紙交換の１例である。大学生は多くの質問を投げかけており，中学生の返事もすべてではないが，それに応じようとしていることが見てとれる。授業後，大学生と中学生の双方が，手紙や返事が待ち遠しかった，あるいは，手紙の交換がよい経験であったことを述べている。

表４　大学生と中学生の手紙交流の例

大学生→中学生（原文縦書き）	こんにちは。△△さんのパートナーになりました，○○○○です。「西の魔女が死んだ」は，題名は知っていましたが，まだ読んだ事がなかった作品なので，わくわくしながら読み始めました。一番最初の場面で，いきなり「魔女」が出てきたので，どんな人物なのだろうと想像しながら読んでいきました。何か不思議な雰囲気のある，冷たい人をそう呼んでいるのかと思っていましたが，温かいおばあちゃんという本当の魔女でした。 おばあちゃんは，「一つ，いつ起きると分かっていることがあります」と言っていましたが，これは何の事だと思いましたか？私は，２年後に訪れるおばあちゃんの死の事を言っているのではないかと考えました。さらに，それはおばあちゃんをあせらせるものだとも言っていましたが，おばあちゃんは，自分が死ぬ前に，たくさんの知恵や知識をまいに伝えておかなければと思っていたのかもしれないと思いました。 ゲンジさんは，行動の真意が分からない人物だという印象を持ちましたが，△△さんは，ゲンジさんはどのような人物だと思いますか？　おばあちゃんが死んで，銀龍草を持ってきた場面を読むと，悪い人ではないように感じます。まいはゲンジさんを嫌な人だと先入観を持って見ていたから，悪い人だと思い込んでしまったのかもしれないと思いました。 おばあちゃんの魔女修業は，規則正しい生活をすることから始まりましたが，継続するということの大切さ，そしてしっかりと守ってきたまいの強さも伝わってきました。 最後に，この話の題名はどうして「西の魔女が死んだ」なのだろうと思いました。話の結末を題名にすることでどんな効果があるのか，どんな意味が込められているのか，疑問に思いました。△△さんならどのように思いますか？ 最後になりましたが，だんだんと寒くなってきていますので，風邪などに気をつけてお過ごし下さい。 十月十九日 ○○○○ △△△△様

中学生→大学生	こんにちは。お手紙ありがとうございます。S中学校の△△△△です。 「西の魔女が死んだ」は，映画かがされて，名前を知っていたのでこの本を読むことにしました。 題名で「魔女」と出てきたので，初めは魔法を使ったり，空を飛んだりするのかなあと思っていたけど，普通に，まいのおばあちゃんだったのでびっくりしました。 おばあちゃんが言っていた「一つ，いつ起きると分かっていることがあります。」では，そんなに意味を深く考えていなかったのですが，今考えてみると自分の死のことを言っていたのではないのかなあと思いました。 最後に併録されていた「渡りの一日」では，まいがおばあちゃんに教わった，何でも自分で決めるということが役に立っているのではないのかなあと思いました。 映画化もされているので，DVDを借りてみたいです。 では，お体に気をつけてお過ごしください。 10月22日　△△△△ ○○○○様

4．2．2　観察した教諭の記録

第2時には，観察した教諭に，それぞれの学級の生徒の様子，その様子を見て考える長所と短所（問題点）を尋ねている。

〈1組〉生徒の様子

- いくつかの質問に対して，「～が同じ」「～が違う」など読みを比べていました。
- 自分の思いを話す，他人の話を聞くということに慣れていない（そういう機会をあまり経験していない）と感じます。自分の思いを話す楽しさ，他人の話を聞く喜びを多く体験してほしいなと思います。

記録によると，生徒はワークシートの話し合いの観点に基づいて，それぞれの読みを比べてはいるが，教諭が期待するほどに活発には話し合っていない。このパートナー読書の実践のみならず話し合う機会を増やしていくことの重要性が指摘された。

〈1組〉長所と短所

長所
- テーマ（本）をもとに話をすることができる。様々な感想を出すことができる。
- 3つのパートナー読書の中で，一番やりやすいものと感じます。
- お互いの読みを同じような視点で話し合うことができる点
- 興味を持つ本ばかり読んでしまう傾向にあるが，パートナーと一緒に読むことで，手にする本が広がる

短所
- パートナーの不在。トークのネタ。未読の場合の対応。
- 時間の問題（お互いが読み終える時間的な保証）
- ペアの組み方。教担の工夫が大事であると思います。
- 今回は，「本を読んでいない」「少ししか読んでいない」という生徒が多くいました。一方朝読書を利用して，3日で読んだ生徒もいました。まず「本を読んでくる」ための工夫（時間，意欲づけ）が必要だと思います。

1組の，話し合いの観点をもとに読んできた本について話し合うという活動は，教諭にとっても行いやす

いものと映るようだ。しかし，話し合いが弾むかどうかは，パートナーとの人間関係にも左右されるので，パートナーの組み方を考える必要がある。最後まで読みきっていない生徒が多く存在したため、話し合いが低調に終わっている場合もあった。動機づけについても，パートナーがいるというだけでは，確実に最後まで読んでくるとは限らないことが明らかになった。実際に読んでくるための時間の保証が課題として浮かび上がった。それから，本実践を行った時期は，新型インフルエンザが蔓延した時期と重なり，欠席者が多く出た。パートナーが欠席してしまうと活動が成り立たなくなることが，パートナー読書の問題点として挙げられる。

〈２組〉生徒の様子

- ポップ　視覚に訴えるものを作ることはとても楽しいことだと感じました。図書館や本屋など本の紹介の仕方を見ている。
- ポップの内容　扱っているもの（・本の表紙などに書いてあること　・イラスト　・おおまかな筋），書き方（・本の内容に関するもの題名に関するもので，紙の色（川→青など）を決める。・疑問形～読んでみませんか？）
- 女子が熱心にとりくみ，男子は・・・というペア
- 女子がひっぱり，男子が手助けするペア
- 女子－男子ともに話し合いながら進めるペア
- 生徒たちは他の人に見せることによって，“よいものを作ろう”という意欲を感じました。
- ボイスレコーダーNo.6の３番目くらいに入っていますが・・・あまり話をしていなかった。

観察した教諭の目にも，生徒は，ポップをよく知っており，よいものをつくろうと熱心に作業をしていると映ったようである。しかし，パートナーと話をする場面は期待よりは少なかった。

〈２組〉長所と短所

長所
- 生徒が興味をもってとりくむこと
- ポップを書く→楽しさ（人に見てもらう），責任（まとめなければ）
- パートナーで読むことでポップを作る意義（・協力できる・確認できる）
- １つの本を通してさらにポップ作りを通して，かかわり合いがみられました。２人で１つのものを作る，他の生徒にみてもらうということによって，よく取り組んでいたと思います。
- 目的（今日の授業の）が，生徒にとって，わかりやすいものだったと思います。
- スムーズに行えると思います。
- 見本のポップがあることが大切だと思います！！（今回は，大学生のものがあって，とてもよかったです。）

短所
- 時間内にできなかった場合の処置
- 設置場所，用具の購入代，など。
- やはり本を読んでいない生徒がいたので，話し合い，ポップを作る土台として，“本を読む”ための工夫が必要だと思います。

全体的に，ポップづくりはスムーズに行えるが，ポップを作る以前の本を読むことの指導，見本の作成や設置場所・用具代，時間等に多少の課題を残した。

〈３組〉生徒の様子

- （窓側一番後ろの生徒），２つの疑問，一生懸命答えようとしていた。〈なかなか学習へ向かわない生徒でも。〉

・自分の読みが合っているか不安。こんなことを書いたら大学生に笑われるかもという不安が見られた。
・封筒を破りたくない。大切な手紙となっていた。
・感想を持っていても，それを表現する（方法の）難しさ。
・大学生の手紙に圧倒されて書けない生徒
・ふだん書くこと（特に手紙）に慣れておらず，出だしの自己紹介で終わってしまっている生徒
・手紙を友達と見せあい，楽しそうに話をしている生徒
・手紙を書くことが，気はずかしいと感じている男子生徒（逆に見えない相手なので，一生懸命に書いているところもみられました）
・手紙をもらったことによって，本をもう一度見直し，読み直ししている生徒
・便せんをもらうと，すぐに書き出して，黙々と書きつづけていた生徒（意欲的！！）
・何も書くことが浮かばないで，紙をみつけている生徒

記録によると，様々な生徒の様子が窺えるが，全体的にまず熱心に大学生の手紙を読んだようである。しかし，全ての生徒が短時間で上手に手紙を書き始められたわけではなかった。

〈3組〉長所と短所

長所
・思いを共有する楽しさ（特に大学生からの手紙。とても引きつけられるもの）
・1つの本を通して，他の人（ここでは大学生）と交流ができるということ。2年3組の子たちは，大学生の“立派な”手紙を読んで，とても驚いていました。内容も理解できない生徒もいたようですが，それも良い経験であると思います。パートナーがいるから，“本を読もう！”という意欲を！パートナーがいるから，“手紙の返事を書こう”！！という意欲を感じました！！
短所
・相手（大学生）と中学生を結ぶ第三者。
・実際行うとしたら，大学生は難しいので，先輩・後輩（他学年），他のクラス，地域の方々，近隣の中学・高校・小学などできそうです。

3組では，大学生が書いた手紙が，非常に生徒の関心を引いたものとなった。手紙に対して返事を書こうとしている姿が見られた。教科担任は，授業後の検討会で，「一番深く刺さっていたのは3組だと思う」と話したが，読んだことについて考えるのは，この学級で最もよく行われていたようであった。今回は，大学生をパートナーとしたが，大学生という設定には可能性と困難点の両方があるようである。同じ学級にはいない者とパートナーを組んでいるため，欠席の問題は大きい。しかし，手紙という媒体は授業中でなくても読めるため，また，返事を書くという活動は個人作業であるため，もしも時間と機会が与えられれば，授業を欠席した生徒でも可能である。実際，教科担任教諭の配慮で，欠席者の生徒の一部が書いた返事が，後日大学に届けられた。

〈3学級を比較しての考察〉

授業後に，参観した教諭3名と授業者で検討会を開いた。そこで，お互いに観察した生徒の様子を共有したり，授業に対する考えを述べあったりした。その結果，3学級の活動については，最も簡単に授業に織り込めるのは1組のワークシートに基づく話し合い，最も楽しそうに取り組んでいたのは2組のポップを作る形，最も生徒が深く考えていたと思われるのは3組の手紙交換であるということになった。また，先に述べた5観点について，3学級2時間の授業をもとに言えることは次のとおりである。

① 学校の中で短時間で扱える ◎

本実践は2時間扱いであった。この実践通り行えば，2時間という短時間で行うことができる。ただし，今回は，3学級にわたって，読了していない生徒が見られた。生徒の実態によっては，「朝の読書」の時間活用など，読書をするための時間を準備する必要がある。

②　生徒の動機づけになる　○

パートナーの存在が，確かに生徒の読書活動の動機づけになっていることが窺えた。特に３組の大学生は，見知らない相手でもあり，よい意味での緊張感を伴って刺激があったと考えられる。しかし，同じ学級で行う場合には，動機づけに効果が上がるように，パートナーの組み方に工夫をすることが必要である。

③　本を集めるのが容易である　◎

２冊用意するのは，容易であった。本実践の特に２組で行った教科書の推薦本リストに載っている図書と当該校の学校図書館，近隣の学校図書館，市立図書館の活用は，２冊準備の可能性を示した。

④　読んでいる中身をチェックできる　◎

生徒同士に話し合っている様子，ポップを作っている様子，返事の内容から，パートナーがどれくらい読んできているかどのように読んでいるかをチェックするのは，容易であると考えられる。また，それを見ている授業者や教諭の立場でも，ある程度生徒が読んでいる中身を想定することができた。

⑤　学校で扱う意義を生かして，見通しをもった生徒同士の交流・表現活動が行える　○

特に１組と２組で，生徒同士の交流が行えた。しかし，②でも述べたように，パートナーの組み方が重要である。３組は学級の中の生徒同士ではなかったが，同じコミュニティーに属さない者同士がパートナーを組んでも，効果的であることが示された。一方，話し合う，ポップづくりを行うといった活動の意味が理解されていなかった生徒もいたことから，これらの交流活動（協同活動）を十分に理解させたうえで，読書に取り組ませることが重要である。

それぞれの観点の後ろに示した記号は，◎（二重丸印）が開発した活動が観点を十分満たしていると考えられるもの，○（丸印）が観点を一部満たしていると考えられるものという意味である。これらは，次に述べる質問紙調査の前段階として，授業者と授業観察者である教諭３名の計４名による結論として，質問紙調査の回答者に報告された。

５．中学校教諭に対する質問紙調査

本研究では，中学校現場に適した読書指導法の開発が目的であるから，中学校現場でこの「パートナー読書」という指導法が使用できるかどうかが重要な関心事である。そこで，ここまで述べてきた「パートナー読書」の試行的実践を中学校の現職教諭に報告し，この方法が使用可能であると考えられるかどうかの質問紙調査を行った。

５．１　調査実施の概要

５．１．１　対象

Ｎ市内の中学校で学校図書館担当を務める教諭30名。主に司書教諭，国語科担当教諭である。

５．１．２　日時

平成21年10月29日（木）14時～15時30分

５．１．３　調査の実施

・質問紙調査の回答者である参加教諭による模擬授業実践…講演会場は２人が並んで座る机が配置されており，隣の席に座った教諭同士が二人組になって，同じ本を選び，10分ほど読んだ後，１組（話し合い群）のワークシート（図２）に基づいて話し合いをした。

・筆者（授業担当者）による報告（講演）…パワーポイント及び写真や学習指導案・ワークシート等の提示に基づき，各学級の生徒の様子や作品等が示された。先述の観点①～⑤の一応の結論（二重丸印及び丸印）も報告された。

・５分以内の質疑応答の後，10分間で質問紙の記入をした。

５．１．４　質問紙調査の項目

回答者はＡ４判１枚の用紙に，次の４項目について，自由記述方式で記入した。

質問１．演習を行って，また，講演を聞いて，中学校現場における（あるいは中学生にとっての）パートナー読書の長所と短所（可能性と限界）は何だとお考えでしょうか。
質問２．本の集め方について，意見・感想をお願いします。
質問３．パートナーと行う協同の活動について，今回は①話し合い，②ポップづくり，③手紙交換の３つを示しました。それぞれについて，自由にコメントしてください。
質問４．パートナーと行う協同の活動について，今回示したもの以外のアイディアがあれば，書いてください。

５．２　質問紙調査の結果と考察

これらの質問についての結果を，まとめてみる。引用した後に，考察を加えることとする。

５．２．１　パートナー読書の長所と短所

５．２．１．１　パートナー読書の長所

質問紙調査の結果を項目ごとにまとめると以下のようになる。括弧内は30名中の人数である。長所に関しては，次のような意見が挙げられた。

・読み・考えを深めたり広げたりすることができる。(10)
・読書意欲がわく。読まざるを得なくなる。（８）
・自分と同じ・違う見方や感じ方を知る。
・感想・感動を共有できる。共通の話題を持てる。（６）
・面白い。楽しい。（４）
・情報交換・意見交換ができる。（４）
・手軽である。かまえずに取り組める。（４）
・読書への導入・きっかけになる。（３）
・読んで表現する力がつく。コミュニケーション活動としても意味がある。（２）
・読書に親しみをもたせられる。（１）
・人間関係（コミュニケーション）が改善される。（１）
・「話すこと・聞くこと」での活用の可能性がある。（１）

読みや考えが深まること，読書意欲につながることについては，多くの教諭が述べている。

５．２．１．２　パートナー読書の短所

中学校現場にいる教諭たちにとっては，次のような問題がある。

・パートナーの組み方の工夫，人間関係への対処（９）
・動機づけにならない，読んでこない生徒の存在（７）
・パートナー間の読速度の違い（３）
・本嫌い・読書嫌いの生徒の存在（３）
・読む時間の確保
・選書でつまずく生徒の存在（２）
・時間の確保（教諭の準備時間），授業時の位置づけ（２）
・パートナーの能力差（１）
・話せない（交流ができない）傾向の生徒への対処（１）
・向かない本がある（１）

やはり，多かったのは，パートナーの組み方である。組み方次第では，動機づけにならないことも多いと現場は考えている。

この活動を行うにあたって，読めない生徒・話せない生徒をどうするかという問題が明確になった。授業時間については，国語の授業時間として位置づけることを想定していることが，回答者に十分には伝わっていなかったようである。準備時間は，N市の場合は学校司書が存在して支援が見込めるが，どこの地域でも簡

単にできるというわけにはいかないようである。

５．２．２　本の準備

本実践は２冊ずつ本を集めることを提案したが，30名中24名の教諭が，提案した方法のいずれかを使用すれば，２冊ずつ集めることは可能であると回答した。難しいとした回答は，破損・紛失の問題（２名），手配をする人材の問題（１名）を挙げた。これらの回答の内訳をみると，自校の学校図書館を用いる可能性について述べたコメントは３名で，市立図書館からの借出については10名が肯定的，２名が否定的であった。他校からの借出については，すでに行っているということも含めて９名が肯定的，３名が否定的であった。否定的である理由は，上記の破損・紛失と時間がかかることを挙げている。教科書リストの利用についての肯定的コメントをした回答者が４名いたが，そのうち１名はリストの中には不向きな図書があることも指摘している。これらの難点があるにせよ，２冊という冊数が集めやすいことは，ほぼ同意を得た形となった。

実践校のあるＮ市は学校司書を全校に配置し，市立図書館が学校図書館をサポートする体制をとりつつある。この実践が行われた平成２１年度以降も，市立図書館の中に学校図書館支援センターを設置し，学校で使われる図書の提供・貸出を行うようになってきている。このような状況が，影響していることも考えられる。

５．２．３　「話し合い」「ポップづくり」「手紙交換」の各活動に関するコメント

質問３については，①話し合い，②ポップづくり，③手紙交換の３種類の交流活動について，織り交ぜた自由記述の形式で，回答が寄せられた。それぞれ，どの活動に関するコメントなのかを整理して次の囲みの中に引用するが，その際，似たコメントをまとめていくつかのグルーピングを行って示すこととする。

５．２．３．１　話し合い

＜実現可能性＞
- お助けシート等を用いて行えば，こちら側の事前準備はあまり必要なくできそうだと思った。ただ，話し合いができないところもあるかも！？と思うと，Ｔ・Ｔなどで行えるとよりよいかもしれないと思った。
- 時間がかけられれば話し合いからポップづくりへと発展可能。
- 話し合いだと，最後まで読まない途中でも共有できるのでいいと思いました。
- はじめは難しいと思うが，経験を重ねていくことが大切
- 話し合いは“共感”の嬉しさと，違う見方，考え方を知ることの驚き，喜びの両方があり，いくらでも話せそうだった。
- 話し合い，手紙交換は，深く読む目的のためには有効だと思います。
- 有効なのは，フリートーキング（手紙も含めて）ではないでしょうか。
- 中学生はあんまりしゃべりたがらない子が多い。でも，本当に好きな本についてはマニアックに話す。
- 趣味が合う者同志が組むと話し合いもとてもおもしろいと思います。「このセリフがいいよね」「この人のこういうところがかっこいいね」など話がはずむと思います。
- 日常交流のあるパートナーとは，やりやすいし，回を重ねるともっと上手になると思います。
- 目的を達成するには一番効果的かもしれない（→読書率アップ）
- 実際に行うとなると，話し合いが実現しやすいのかなあと感じました。
- メールが主なコミュニケーションの手段である今，生身の人間と自分の意見を交換するのは生徒にとって新鮮さがあると思う。
- 「話し合い」は，会話の経験が少なく，語いの少ない中学生には難しい（深まりがない，発展しない）のではないかと思います。しかし，あえてやることで会話力がつく，コミュニケーション能力が高まる（？）かもしれないとも思いました。

＜話し合いのさせ方についての疑問・意見＞
- 何を狙いとして話し合いを行うのか…評価を考えるのか？パートナーは２人でなければならない理由はあるのか？

・お助けシートは良いと思ったが，生徒が図鑑を選んだ場合使用しにくいので，もし使うならこちらが本を用意する必要がある。
・確かに話し合いなさいと言っても，何を話題に意見交換をすればよいのか，話し合いの結末をどうするのか，お互いの感じを言い合って終わりなのか，まとめるのか…
・話し合いはおもしろいですが，ちょっと難しい感じがします。個人的には人の持っている本を見て雑談をしている生徒たちの話を聞くほうが楽しいです。
・今日のように読む時間を設定し，15分でストップ→話し合いの流れは途絶えなくて良かったが，生徒も同じやり方でできるだろうか。家で読んでくるように指示して次の日あらためて話し合い…となると流れのいきおいが弱くなるだろうか。
・（筆者注，一番良いのは）あるいは「良かった点」「疑問点」を各自書き出してから話し合い。（最初からフリーで話し合うのはハードルが高いと思う）
・話し合いでは，お助けシートを提示する前に生徒たちがどのような内容の話し合いをするのか興味深いです。
・中学生であればどういったことを話し合うか，方向づけがあったほうがよいような気がします。自分が気づかなかった点も感じることができるので良いと思います。

「話し合い」を用いたパートナー読書についてのコメントは，以上のようなものであった。これらは大きく２つに分けることができる。

１つは，「話し合い」の実現可能性である。事前準備に対する負担が軽いこと，手軽さなどの点から，実現可能性が高いことを示唆するコメントが多かった。また，最初は難しかったとしてもこのような話し合いを続けることの意義が指摘されている。

もう１つは，話し合いのさせ方についてである。特に，話し合いのさせ方と評価の仕方についての検討が必要である。これは，また，ワークシートについては，図鑑など情報を伝える本（information book）・ノンフィクションの本についての話し合い補助ワークシート（お助けシート）の開発も必要である。

５．２．３．２　ポップづくり

＜活動が楽しいものになりそうだと指摘しているコメント＞
・あまり本好きでない生徒も興味をもってやれそうだと思った。見本がいくつかあればさらに生徒は取り組みやすいと思う。
・読書郵便の授業から，ポップづくりのイメージはできる。楽しんでくれそう。ただ，どうしても役割ができてしまいそう。読んでこなくても何とかなる生徒もいるはず。
・ポップづくりも楽しそうでよかったです。パートナーと共有したものを，他の人にも伝えることでもあり，また，見る人には興味のある本をみつける助けにもなってよいと思いました。
・「ポップづくり」楽しそうです。
＜実現可能性＞
・それぞれによさがあると思うが，実際に授業で挑戦してみるとしたら，②のポップ作りでチャレンジしてみたい。
・読書カードとポップづくりを個人に行わせています。それらを提示したり，発表させたりする学習活動を行いました。確実に読書活動は促進されたとアンケート評価や生徒の実態からも感じています。
・とても良い。ぜひ試してみたい。
・ポップは図書委員会でやっているが，やはりポップのついている本は貸し出し率が高い。今度全校で募集してみたい。（現在は「しおりコンクール」と「本の帯コンクール」をやっている。）
・ポップ作りは導入的にやってみたり，本が苦手な生徒にとっては有効だと思いました。ただ，帯つき，ストーリーが書いてある（背表紙）をそのまま使ってしまう人が出てくるので，ルールの中に加える

と，本を読み込んでおすすめポイントを書き，オリジナルポップになると思いました。
・後日，図書館に展示したりして，皆の目にふれることもでき，達成感が大きい。
・形から入ることで，後々の意欲につながりやすい，印象にのこりやすい
・現在，学校図書館で本の紹介を工夫できないか，考えていたのですが，このポップづくりは生徒も楽しめたようで，とても興味を抱きました。
＜表層的な読書になることをやや否定的に指摘するコメント＞
・ポップづくりはあまり読まなくてもできそう。
・内容にふれることは少なくなり，作業に凝りそうです。それも一つだと思いますが。
・ポップ作りは，深く読まなくてもできるし，ペアでなくとも，個人でできると思います。
・話し合いや手紙交換はどの科目でも実践できますが，ポップづくりはどの授業（どの科目）の際に行われた（カウントされた）のかとても気になります。もし，その説明があれば私も聞き落としです，申し訳ありません。
・ポップ作り　やはり，分担してしまい，絵と文に分かれてしまいそう。
・読まないと作れないし，２人の表現をあわせる必要があるのでより，読みを深めることができるのではないでしょうか。
・ポップ作りはたのしい活動だが，役割によっては，本の内容に全くからまず，読みの力，書きの力をはかることもできず，評価材料にできない。→授業時間を割けない
＜作業時間の位置づけについて＞
・ポップづくりは，読書週間にむけて実践するといいかもしれません。他の生徒にも良い刺激になりそうです。
・ポップ作りはたのしい活動だが，役割によっては，本の内容に全くからまず，読みの力，書きの力をはかることもできず，評価材料にできない。→授業時間を割けない
・話し合いや手紙交換はどの科目でも実践できますが，ポップづくりはどの授業（どの科目）の際に行われた（カウントされた）のかとても気になります。もし，その説明があれば私も聞き落としです，申し訳ありません。
・パートナーとではなく，大好きな本をみんなに読んでほしい子が作ってくれるといいと思う。
・時間がかけられれば話し合いからポップづくりへと発展可能。
＜ポップづくりの教材・消耗品などについての指摘＞
・ポップを作るときはぜひ７類の切り紙の本などを活用していいものを作ってほしい。
・紙やハサミ，ノリなど道具をそろえなきゃ

ポップづくりについて，特に特徴的であったのは，「楽しそう」「興味を持つ」などの，感情面に関する肯定的な反応であった。一方で，作業の中にイラストの絵を描いたり，レイアウトを工夫したりといった美術的要素が加わるためか，国語科の授業で行うことについての不安や，他教科・他の活動場面で行うことへのコメントがあった。

５．２．３．３　手紙交換

＜実現可能性とパートナーの組み方＞
・３つの中では，やはり生徒はやってみて一番楽しいと思う。ぜひやらせてみたいが，大学生と行うのは難しいので，他クラスか他学年の生徒同志でやらせてみてはどうかと考えた。
・手紙交換は面白そう。相手がいれば是非やってみたい！！（手紙について）書き方指導は済んでいる。実践としてもよい。プレッシャーになる相手がよいと思う。動機づけになる。→時数に余裕のある１年は可能。他学年交流もよいが，他学年は時数，閉鎖等で今すぐ検討できない。「プレッシャーになる相手～」＝動機づけ。

・手紙交換は中学３年と中学１年のように他学年との活動も考えられる。
・手紙も，普段経験のないことなので，興味をもって取り組める気がします。どういう人と手紙交換をしたらよいのか，ちょっと迷います。
・相手選びが課題では…？
・手紙交換…同じ中学生同士で相手を知らぬまま書くのも面白いかも！？
・はじめに手紙を出してくれる人の力量にかかってくるかなという気がします。
・良い方法ではあると思うが，誰とどのような形でやるかが難しい。①の話し合いの延長として，話し合いでは出しきれなかったことや続きなどを手紙に書くという方法はどうか？
・手紙交換に興味があります。他のクラスとの交換でも可能ではないかと思います。学校外の方が有効とは思いますが…。
・手紙交換はとてもおもしろそうだと思いました。やってみたいと思いました。図書館ポストを使ってやったり，読書週間などでできないものか考えてみたいと思います。
・手紙交換…実際に行うならこれが一番効果がありそうに見るため，これを行いたいが，学校に関係のあるボランティアがほとんどいないと実践が困難
・手紙交換は知らない人（特に今回のようなかしこい大学生が相手だ）と書くことが好きな生徒（女子に多い）は効果的だと思いました
・手紙交換　その場にいない相手へ伝えるというのは，考えたり，まとめたり，という言語活動が盛んになり，読むという受動的な活動だけでなく，能動的な活動がありとてもよいと思う。
・個人的には手紙交換が中学生向きなのかなあと思いました。ただし手紙の相手は知らない目上の人の設定の方が読みが深まると思います。
・クラス一斉でない形態でも例えば司書対一生徒で行える活動だと思いました。
・自分が気づかなかった点も感じ，また手紙にすることでより相手に伝わるように表現するので良いと思います。他学年や違った立場の人との交換がおもしろいかもしれないと思いました。
・手紙交換は互いに１回ずつ書いていたが，中学生の返事をもらった大学生の反応はどんなだったでしょうか。
・手紙交換は，やってみたいと思った。校内より学校外，大学生は適切である。が，大学側と協同でないと，生徒指導上の問題が心配され，気軽にやれることではないと思った。→楽しく，すばらしい成果を得られるが，思春期の生徒を預かる身としては自信がない。
・自分宛の手紙をもらう事はそれだけでうれしい。（中学生にとっては貴重な体験）
・ポップづくり，手紙交換は楽しそうだと思います。
＜書くことに関連して＞
・「書くこと」を考えると手紙が一番良い。
・自分の考えを推敲するため，話し合いより，より高度な活動が期待できる。
・便せん用意しなきゃ。手紙の書き方指導みたいなのは別に分けて考えた方がいいかな
＜問題点＞
・時間がかかる
＜話し合いに関連して＞
・手紙のアイディアはやってみたい！と思いました。その後，自分の気持ちの表現方法を身に付けた後に，話し合いをやってみたいと思いました。
・手紙交換が一番読み深められたということですが，実際に行うとなると，話し合いが実現しやすいのかなあと感じました。
・話し合い，手紙交換は，深く読む目的のためには有効だと思います。
・有効なのは，フリートーキング（手紙も含めて）ではないでしょうか。
＜既存の「読書郵便」＞

・小学校の「読書ゆうびん」みたい。
・１年生の「読書郵便」は個の作業でしたが，二人組でできるのは苦手な生徒にとって助かると思いま

最も多かったのは，実現可能性に触れながらも，パートナーの組み方に言及しているものである。パートナーが大学生であったのは，大変有効であったと評価されている。しかし，大学生というパートナーをすべての学校で得られるとは限らないので，自分の学校内・学級内で行う工夫が述べられている。

手紙を書くという活動は，国語科の授業における「書くこと」に関連させるということもあり，教科内で取り扱うことについての不安は挙げられていなかったが，１名「時間がかかる」ことを指摘している。これは，作業に時間がかかるというよりは，手紙のやりとりに時間がかかるという意味であると推測される。

話し合いに発展させるアイディアや，話し合いと比べてのコメントが挙げられている。

なお，ここで指摘されている読書郵便という活動は，このパートナー読書とは異なるようである。三省堂中学校国語教科書『現代の国語１』には，「『読書郵便』を楽しもう」というページがある（p.208）が，「おもしろい本を見つけたときに，だれかにその本の内容を話してみたくなりませんか？　『読書郵便』は，読んでおもしろかった本や感動した本をはがきなどの形式で紹介するものです」となっている。すなわち，この活動は，読んだ生徒から読んでない人へ宛てた郵便で，本の紹介という性質である。「パートナー読書」のように，読んだ者同士の交流を意図しているわけではない。

５．２．４　その他の活動アイディア

質問４についての回答を下に示す。これもいくつかにグルーピングをする。

＜話し合い，感想の共有＞
・最後に話し合うだけでなく，朝読書のうちの週１回を，たとえば共有しあう時間にしたら，読書自体が進むかもしれません。一冊おわった最後には＋でポップづくりをすると楽しそうだと思います。
・①朝読書用の学級図書をテーマや著者によって，ある程度まとめる（関連性のある本だけを集める）。②各自が持参する本以外に，学級図書も必ず読む（３ヶ月程度の間で）。③学級で大洋紙１枚程度にそのテーマについての紹介新聞を作り，④全校が見れるように掲示し，読書換起する。⇒②の中で話し合う③の中で創作，話し合いができる？？
・（お互いに本に愛着があれば）おたすけシートの項目に「この本のイメージにピッタリな曲は」という設問も有効かもしれない。
・マンガでパートナー読書するとすごくうまくいきそうな気がする。（感想言いあい）ということはやはり本の趣味が合うとマンガでなくても意見がたくさん出るはずですね！
＜音読＞
・気に入ったところを声に出してお互いに読み合ってみる活動
・気に入った場面を声に出して読み，紹介し合う。
＜クイズ＞
・クイズ形式で競争するのもおもしろいと思います。心に残った場面をイラストに，自由に書くのもいいかなー，と…。※学活も道徳も総合も，やることがすべて決められていて，読書活動を入れる時間がありません。やはり国語の時間でしょうか…？
・互いに質問を出し合う，アニマシオン風の活動はどうでしょう。深まりは期待できませんが…。別々の本を読むというのでは意味がないのでしょうか？互いに読んだ本を紹介し合い，話し合うというのはどんなものでしょう？今回の活動の話とは違うと思いますが…。
・読んだ本（内容）についてクイズ作り
＜読んだ本の紹介＞
・別の組に紹介させる。（役割が平等になるようにしないといけないが…）
・パートナーと組んで自分たちの選んだ本についての紹介を学級の中で行う。よりよく読む（深く読む

力）→発表原稿の作成，発表原稿（話し合う力，文を練る力）の推敲→わかりやすく発表（間の取り方，声の大きさ，発表態度）
・“おすすめの本の３分間ＰＲ”コンテスト。ペアでみんなにおすすめの本のＰＲポイントをパフォーマンスし，実際読みたくなったかどうかの人数を競う。（しゃべくり７でやっているような形）
・次の読んだ本の紹介をお互いにするなどの活動につなげられたらいいなあと思います。
・出版社の人，本屋の人になって，その本を売り込みＰＲをする…なんていうのはどうなのでしょうか。人におもしろそうと思わせるようにポイントを絞る過程を話し合わせたりするとおもしろそうだと思いました。思いつきですみません。
＜その他＞
・読書画
・朝読書の本で，兄弟同士の生徒が本の交換をして読み，感想を付けて返す，とか。

まず，話し合いの活動を改善するいくつかのアイディアが示されている。音楽をつけること，気に入ったところを音読すること，さらには，クイズを作って出し合うことなどが提案されている。

一方で，ポップづくりがヒントとなっていると思われるのが，本の紹介・ＰＲといったことである。これらは，紹介の聞き手は本を読んでいないことが想定されているが，紹介する側が複数の生徒で，そこで相談しながら行うという，今回のポップづくりで行った協同作業の改善案であると考えられる。

その他に入れた「読書画」は，特に説明がなかったが，いわゆる読書感想画のように個人で読書をしたことについて感想文ではなく感想画を描くという活動であると想像できる。しかし，これもポップづくりに触発されたアイディアであるかもしれない。その他にもう一つ挙げた「兄弟同士」というのは，年齢が違った二人組を想定してのことであろう。兄弟であると私物の図書なども有効に使うことができる。

６．研究の成果と今後の課題

６．１　研究の成果

本研究では，中学校に入学した生徒があまり読書をしなくなるという現状や，平成20年３月の中学校学習指導要領（国語科）が「読書活動を内容に位置付ける」ことを問題とし，中学校現場に適した国語科教育で用いることのできる読書指導法を開発することを目的とした。特に，①学校の中で短時間で扱え，②生徒の動機付けになり，③本を集めるのが容易で，④読んでいる中身をチェックでき，⑤学校で扱う意義を生かして生徒同士の交流が行えるという５点を観点として，二人組交流型読書指導法「パートナー読書」の開発を目指した。パートナーとの年齢差や交流活動の違いから，読書をした後，同じ学級のパートナーと話し合いを行う直接交流群，同じ学級のパートナーと協力してポップづくりを行う協同作業群，大学生のパートナーと手紙の交換を行う間接交流群の３種を提案とした。中学校３学級における授業実践を行い，この授業実践を実際に観察した教諭３名の記録及び授業実践報告を聞いた30名の教諭の質問紙調査から，前述の５観点及び３種の活動の特徴について，考察を行った。

その結果，パートナー読書は，次のような特徴があると教諭に認識されたことが明らかになった。５観点に即して述べる。

① 学校の中で短時間で扱えるということについては，十分に認められた。学校国語科の２時間を使用する本実践は，中学校現場に即したものであり，本についての話し合いや手紙交換などは読書を通して「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の活動としても位置づくことから有意義であり，短時間で実現可能である。しかし，一部「ポップづくり」については美術的な要素もあるため，国語科の授業で位置づけられるのかどうか，疑問視する教諭がいた。

② パートナーを持つことが，生徒の動機づけになることについては，ある程度認められた。しかし，パートナーの組み方によっては，このことが動機づけに結び付かない場合もある。年齢差があり知らない相手である大学生との手紙交換では，パートナーの存在が強い動機づけになっていた。だが，パートナー

に大学生を求められるとは限らないと，多くの教諭が自分の学校ないし学級におけるパートナーづくりを考えていた。

③　本を集めるのが容易であることは，十分に証明された。2 冊という冊数は，本実践で提案した自校の学校図書館，近隣の学校の図書館，公立図書館の蔵書の利用を含めて，実現可能であると教諭が認めるものであった。破損・紛失を心配する教諭もいた。しかし，N市のように学校司書が存在する学校ではよいが，存在しない学校での教諭の負担感については，多少の問題を残した。

④　パートナーがどのように読んでいるか，その中身をチェックすることは，十分に可能であった。途中までしか読んでいないということも含めて，パートナーにはよく伝わっていた。

⑤　生徒同士の交流については，活動によって差異はあるが，その意義がある程度認められた。話し合いは手軽ではあるが，話し合いのさせ方について，ワークシートやその他の補助手段を充実させていく必要がある。ポップづくりは，生徒が楽しんで活動することがよく見られたが，カリキュラム上の位置づけや，思考を深める読書という点では，他の方法に及ばない。大学生との手紙交換は，深く読むのに最も適した方法であると教諭たちに受け止められた。

全体として，「パートナー読書」は中学校現場に適した読書指導法であると言える。ただし，本の準備に負担感を感じる教諭や，よりスムーズな活動への工夫が必要である。

6．2　今後の課題

本研究は，二人組であるということと，その 2 人が何らかの交流（意見交換等）を行うということだけを限定した取り組みを，3 つ並べて試行的な実践を行った。実現可能と思えるかどうかという教諭の意識に研究の焦点をあてたため，各活動がどのような意味を持つかについての考察については，十分に検討できなかった。例えば，本研究では同じ本を読んだ 2 人が話し合う活動を提案しているのであるが，二人組の話し合いは 4 人などの小グループあるいは35人などの 1 学級での話し合いとどう異なるのか，話し合うタイミングは読む前と読んでいる途中と読んだ後のどこがよいのか，今回は話し合いに相応しい内容をワークシートで示すことによって話し合いを支援しようとしたが，内容は限定した方がよいか順序はどうしたらよいかなど，詳細に検討すべき課題は多数存在する。個々の活動について詳細に検討し，生徒にとっても充実した活動で，教諭にとっても意義が認められる活動に精緻化していきたい。特に，興味深いのは，手紙交換群で，予想した以上に生徒たちは真剣に返事を書くという課題に取り組んでいるように授業者にも見えたし，参観した教諭と報告を聞いた教諭が，「深く読んでいる」と感じた。そうだとするならば，手紙交換という活動が，どのように深く読ませているのか，より厳密な検討をしていきたい。

文献

Hughes, E., Mukhongo, A., & Lane, S. E. (2009). The Effects of Authentic Literacy Tasks on Reading Motivation.　Paper presented in National Reading Conference 59th Annual Meeting, December 2, 2009. Albuquerque, New Mexico.

金田一春彦・長谷川孝士他（2006）　現代の国語１．東京：三省堂（中学校国語教科書）

金田一春彦・長谷川孝士他（2006）　現代の国語２．東京：三省堂（中学校国語教科書）

Meisinger, E. B., Schwanenfluge, P. J., Bradley, B. A., & Stahl, S. (2004). Interaction Quality During Partner Reading. *Journal of Literacy Research, 36*(2), 111-140.

椋鳩十(1961)．母と子の20分間読書．東京：あすなろ書房

文部科学省(2008)．中学校学習指導要領解説．東京：東洋館出版社

OECD (2009). *PISA 2009 assessment framework: Key competencies in reading, mathematics and science*. Paris: OECD Publishing.

大村はま（1984a）大村はま国語教室第 7 巻：読書生活指導の実際(1)．東京：筑摩書房

大村はま（1984b）大村はま国語教室第 8 巻：読書生活指導の実際(2)．東京：筑摩書房

Palincsar, A. S.& Brwon, A. L. (1984). Reciprocal teaching of comprehension fostering and

comprehension monitoring. *Cognition and Instruction*, *12*, 117-175.

Robb, L. (2000). *Teaching reading in middle school: A strategic approach to teaching reading that improves comprehension and thinking*. New York: Scholastic, Inc.

舘岡洋子 (2005). ひとりで読むことからピア・リーディングへ―日本語学習者の読解過程と対話的協働学習―. 東京：東海大学出版会

Teale, W. H. & Gambrell (2007). Raising urban students' literacy achievement by engaging in authentic, challenging work. *The Reading Teacher, 60*(8), 728-739.

Teale, W. H., Zolt, N., Yokota, J., Glasswell, K., & Gambrell, L. (2007). Getting children In2Books: Engagement in authentic reading, writing, and thinking. *Phi Delta Kappan, 88*(7), 498-502.

Toppoing, K. (1987). Paired reading: A powerful technique for parent use. *The Reading Teacher 40*, 608-614.

Wray, D. & Medwell, J. (1991). *Literacy and language in the primary years*. London: Routledge. Scholastic Professional Books.

全国学校図書館協議会 (2010). 子どもたちの読書と学校図書館の現状2010. 東京：社団法人全国学校図書館協議会

資料１　我が国の小学校に広がる「ペア読書」

●浜田市立井野小学校ホームページより「ペア読書」更新：2009年07月09日
４年生以上が１～３年生とペアになって「読み聞かせ」
　７月６日（月），朝の読書活動の一環として，「ペア読書」を行いました。４年生以上の上学年児童が，３年生以下の下学年とペアになって読み聞かせをしました。
　上学年は，下学年のために本を選び，読み聞かせる体験をとおして，さらに本に興味を持つきっかけとします。
　下学年は，読んでもらった本の感想を，上級生に伝えることにしています。
http://www.hamada.ed.jp/ino/action/2107/peadokusho.html（アクセス日，2009年11月30日）

●丸亀市立城北小学校のホームページより「ペア読書」
http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id＝3710003&type＝1&column_id＝161336&category_id＝4667（アクセス日，2009年11月30日）

●沼津市立原東小学校　たてわり「ペア読書」
http://swa.numazu-szo.ed.jp/weblog/index.php?id＝numazu024&type＝2&category_id＝402&date＝20080331（アクセス日，2009年11月30日）

●狭山市立堀兼小学校「ペア読書」をしてみよう
　朝日新聞ホームページより　2008年７月６日
　私は毎年，教室の隅に４畳半ほどのユニット畳を敷き詰めた「図書コーナー」を作ります。本棚に約１千冊の本を入れ，自由に読めるようにしています。すぐ手にとれる所に置き，本を身近なものにすると同時に，表裏の関係にある「書く」と「読む」をつなげたいと思っているのです。
　その中に「ペア読書に推薦の本」という一角が作ってあります。ペア読書とは，２人で同じ本を同じ量，例えば80ページまで読んできて，感想や疑問を話し合う。次は120ページまで読み進めて話し合う……と繰り返す読書法です。作品も読み深められますし，友だち同士の仲も深まります。読む範囲を区切ることで，少し難しい本にも挑戦することができ，書くヒントも見えてきます。親子でやってみても，互いの意外な面が見えて楽しくなりますよ。
　私のクラスでは，８種類ぐらいの本の中から読みたい本を選んで，４，５人のグループで読んだことについて話し合う「文学サークル」もしています。「そんな感想もあるんだ」など，友だちから自然に学ぶことになります。いろんな方法で楽しい読書をしてみてください。
（埼玉・狭山市立堀兼小学校・岩瀬直樹さん談）
http://www.asahi.com/edu/student/point/TKY200807050101.html　（アクセス日2009年11月30日）

資料２　学習指導案

第２学年１組・２組・３組　国語科学習指導案

平成21年10月22日（木）第１校時～第３校時
授業者　　足　立　幸　子

１　単元名　　パートナー読書

２　単元の目標

(1)　パートナーと読みたい本を選ぶことができる。（関心・意欲・態度）
(2)　読んできた本について，話し合うことができる。（話すこと・聞くこと）１組
(3)　読んできた本の特徴をとらえたポップを書くことができる。（書くこと）２組
(4)　同じ本を読んで書かれた手紙に，返事を書くことができる。（書くこと）３組
(5)　パートナーと読むことを前提にして，選んだ本を読むことができる。（読むこと）

３　単元設定の理由

小学生時代に盛んに読書をしていた子どもたちでも，中学生になると，急に読書をしなくなるという例は多い。これは，小さい頃に読書の面白さを知らせておけば，自然に読書できる子どもになるという考え方が，いかに安易で楽天的であるかを示しているものである。中学生時代には，中学生に向いた読書指導を行っていくべきである。

中学生が読書を行わないのは，部活動や受験勉強のために物理的な時間の上でも精神的な意味の上でも，読書に割く余裕がないことが原因と考えられる。実は，全国学校図書館協議会の学校読書調査によれば，最近中学生の読書率は微増している。これは，中学校での「朝の読書」の実施率が増加していることが，理由としてあげられる。つまり，中学生が特に読書嫌いになったというよりも，時間が割けない環境にいるということであろう。そうだとするならば，学校教育の中に読書に時間を割く仕組みを作り出すことは，読書率を向上させる対策として効果がありそうである。実際に読書させる時間をとることが一番簡単であるが，それができない場合，読書をしなければならない状況を作り出せばよいわけである。しかし，単に「宿題」ということにしても，なかなか読書の動機づけにはなりにくいし，生徒にとって読書がつらいものになってしまう。さらに，生徒がそれぞれ本当に読書をしているかどうか，確認することが難しい。そこで，この授業では，パートナーを設定することによって，読書の動機づけを行い，実際に読書を行っていることを確認できるという読書指導の仕組みを提案する。

パートナー読書では，①パートナーを組む，②本を選ぶ，③本を読む，④パートナーとの協同作業をする，の４点を行う必要がある。①②を学校で，③を家庭や朝の読書の時間で，④を学校でという形が現実的であろう。今回は①と②に１校時，その後数週間間を空けて，④に１校時を使うという形の授業を行う。しかし，将来的に慣れてくれば，①②や④を朝の読書や朝の会などで行っていくことが可能と考えている。そうすると，学校生活の中で使う時間は極めて短時間で，実際に生徒が読書する時間が確保できるわけである。

今回の試みでは，３学級で，①パートナーの組み方を２種類，④協同作業を３種類設定し，パートナー読書の長所・短所・可能性・限界などを研究することとする。

４　指導計画　（２時間扱い）

第１次　パートナーを組んで，本を選ぶ。（１時間）
・パートナーを組む。(学級の座席で隣同士と（１組），好きな相手と（２組），同じ本を選んだ大学生と（３組））
・教師の本のあらすじ等の紹介（プリント１・３組，教科書162～167頁２組）を聞き，別室に置かれた本の中から読みたいもの１冊を選ぶ。

第２次　同じ本を読んできたパートナーと，協同作業をする。（１時間，本時）
協同作業の種類が学級によって異なる。
・大学生の手紙を読み，返事を書く。（３組）
・２人でその本について話し合う。（１組）
・２人でその本のポップ（紹介・案内）を完成させる。（２組）

5　本時（1組の場合）

(1)　本時の目標

・読んできた本の特徴をとらえ，パートナーとその本について話し合うことができる。

(2)　展開

時間配分	学習活動と予想される生徒の反応	留意点と活動の意図
導入 2分	1．本時の目標（本についてパートナーと話し合うこと）を知る。	
5分	2．フリートークをする。 ・熱心に感想を述べ合う2人組があるだろう。 ・何を話したらよいか分からない2人組が出てくるだろう。	指示なしで，どれくらい話し合えるものか，見てみたいので，この活動を設定する。将来的には，細かい指示なしに，自由に自然に短時間話し合うということを目指しているためである。
展開 8分	3．話し合いの観点を学ぶ。 ・「パートナー読書　お助けシート」の「1．パートナーとこんなことを話し合ってみたら」の話し合いの観点に〇をつけたり，〇をつけたものの優先順位をつける。	「パートナー読書　お助けシート」を配付する。お助けシートには，話し合う観点が羅列されている。本によって，どの観点を用いればよいかは異なる。
20分	4．観点に従って，話し合ってみる。 ・大多数の2人組では，話し合いが成立するであろう。	生徒の様子を観察する。 見学者にも協力してもらい，特定の2人組の話し合いの様子を観察・記録・録音する。 お互いの言い合いにならないよう，アクティブリスニング（うなずき，突っ込みなど）を指示する。
5分	5．話し合ったこと，話し合ってみて思うことを書く。 ・大多数の生徒は，何かしらを記入するだろう。 ・中には取り組まない生徒もいるだろう。	「パートナー読書　お助けシート」を利用する。 取り組んでいない生徒には机間指導を行う。
終末 10分	6．アンケートに記入する ・熱心に記入するだろう。	アンケートは基本的に授業後に行う予定であるが，この学級は活動にあまり時間がかからないので，授業内にアンケートができるであろう。記入が終わらない場合は，後で回収していただく。

(3)　評価

・読んできた本の特徴をとらえ，パートナーとその本について話し合うことができたか。
（観察，お助けシートとアンケートの記入内容）